

今年も節電へのご協力を よろしく申し上げます



◆環境課 ☎ 587 - 6003、FAX 587 - 3834

期間：7月1日(火)～9月30日(火)の平日
〔8月13日(水)～15日(金)を除く〕
時間：9:00～20:00

今年の関西電力管内の最大電力は2,873万kWと想定されます。電力需給状況は、他の電力会社からの応援融通電力等により2,960万kWとなり、最低限必要とされる予備率3%をкаろうじて確保できる見通しです。

国は定着してきた節電努力により、関西電力管内の電力需給を平成22年度最大電力3,089万kWと比べて8.5%の需要減少を見込んでおり、節電にあたってはこの数値が目安になります。

市民の皆さんには夏季の節電を毎年お願いしていますが、今年は例年よりも着実な節電をお願いします。

昨年では、平成22年度比で11%の節電ができました。

エアコンの温度を28℃に設定したり、こまめな消灯、冷蔵庫の温度設定を弱めるなど、日常の業務や生活の中で実施可能な節電を着実に実施していただきますようお願いいたします。

市でも、各施設を含めて節電を徹底するため、照明の間引きの他、緑のカーテン等の取り組みを実施しています。

ただし、産業活動や病院・鉄道などのライフラインや都市機能等の維持については、支障のない範囲で取り組んでください。また、高齢者や乳幼児、体調の悪い人のいるご家庭には、健康上支障のない範囲での節電をお願いします。

◆節電・電力需給に関する情報をwebで紹介しています

▽政府の節電ポータルサイト「節電.go.jp」<http://www.setsuden.go.jp>

▽関西電力ホームページ <http://www.kepco.co.jp/>

みどりのカーテンも節電対策です！

市内各施設で、省エネを目的に緑のカーテンを実施しています。この取り組みも、年を重ねるごとに、ご家庭や地域、PTAなどの皆さん等々のご協力により定着してきています。

ゴーヤのほかにも、アサガオやフウセンカズラ、ツルマメなど、つる性の植物であれば、緑のカーテンを作ることができます。



毎月第4土曜は
廃食油回収の日

平成26年7月26日午前10時～正午

回収会場：市役所別館横電話ボックス付近 回収物：廃食油、牛乳パック、アルミ缶
問環境課☎ 587 - 6003、エコロジーマーケットやすの会・増村☎ 586 - 1441

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

118

歴史民俗博物館

☎587-4410、Fax587-4413

【休館日】月曜日(祝日は開館)、7月22日(火)

※市民は入館無料

◆テーマ展「瓦の考古学」/7月19日(土)~9月28日(日)

◆第72回銅鐸研究会「上御殿遺跡出土の双環柄頭短剣鋳型について」/7月26日(土)午後2時~4時 講師…中村健二さん(滋賀県文化財保護協会)

◆第6回弥生の森写真展・ふおれすとフォトギャラリー/9月28日(日)まで ※展示作品募集中

◆体験教室「古代の火おこし道具をつくろう」/8月9日(土)午後2時~4時 参加費1,000円、定員10人(電話で事前申し込み受付)

◆弥生の森体験学習/夏休み期間中は毎日開催(休館日を除く)、まが玉作り(約60分・500円など)

◆夏休み企画「宝さがし&クイズラリー」/7月19日(土)~8月31日(日)

◆古代のハス「大賀ハス」7月下旬頃まで開花

詳しくは博物館にお問い合わせください。

湖南の古代寺院

日本に瓦が伝えられたのは、今から約1400年前の飛鳥時代です。当時の瓦は、寺院建築や宮殿などに葺かれるもので、庶民の家屋の屋根はワラ葺きやカヤ葺きが主でした。

滋賀県下の飛鳥時代前半の寺院は、大津市堅田の衣川廃寺と穴太・唐崎の穴太廃寺があります。飛鳥時代後半になると寺院跡が60か寺、瓦の散布地8か所が知られ、野洲市内においても六条薬師堂遺跡、八夫西ノ後遺跡、永原廃寺、福林寺遺跡などの古代の寺院跡が確認されています。

『日本書紀』推古32(624)年9月の条では、政府が寺院や僧侶の数を調査しています。この時の寺院数は、46か寺、僧侶816人、尼僧569人の合計1385人でした。飛鳥時代前半には、大和や河内を中心に初期の寺院がありますが、飛鳥時代後半では、北は宮城県大崎市の伏見廃寺から南は熊本県八代市の興善寺まで、約680か寺を数えるまでに増加します。

飛鳥時代においては、国の政策として仏教による国家の繁栄をめざしました。地方の有力豪族は、国家の繁栄と

もに氏族の繁栄・無事を願って氏寺を建立します。寺院の建築は、古墳に代わる新しいモニュメントとして、当時の人々にとって荘厳に映ったのではないかと思われます。初期の寺院を建築した人々は、建物を築く人、基壇や礎石をつくる人、瓦を製造する人、壁画などを描く人などの技術者が朝鮮半島から渡来しています。

寺院の瓦は、平瓦と丸瓦が交互に葺かれ、屋根瓦のほとんどがこの二者です。建物の軒先には、ハスの花の文様を施した軒丸瓦や植物のつると葉を表現した軒平瓦などが葺かれます。



東光寺遺跡出土軒丸瓦

これらの瓦を焼く窯は、低い丘陵の斜面に構築されます。瓦は粘土を採取し、こねてから整形・乾燥の後に窯入れとなります。滋賀県下で最も古い瓦が出土する衣川廃寺には、隣接して瓦窯が構築されています。

その一方で、遠隔地の瓦窯から瓦を運び入れている事例も官営の瓦窯などには見受けられます。

草津市北大萱町の旧宝光寺跡からは、発掘調査により白鳳時代の特色ある文様の軒丸瓦が出土しています。その軒丸瓦の文様は、ハスの葉が十字に配置され、そのハスの葉の

間に小型の円形文が4個入ります。この文様と同様の軒丸瓦が大津市南大萱の東光寺遺跡から出土しています。両寺院の距離は7.5km離れています。が、渡来系の軒丸瓦が出土するなど渡来系氏族の寺院として、その建築だけでなく相互に何らかの連携が取られていたと思われます。

博物館ではテーマ展「瓦の考古学」と題して、7月19日(土)~9月28日(日)の間、湖南地域を中心に古代寺院から出土した古瓦等を展示しますので、ぜひご来館ください。(学芸員 徳網克)



六条薬師堂遺跡出土軒丸瓦・軒平瓦